

「日米間の国際交流プログラム」

～将来の国際人を育てるためと
子どもたちの社会貢献（草の根外交）～

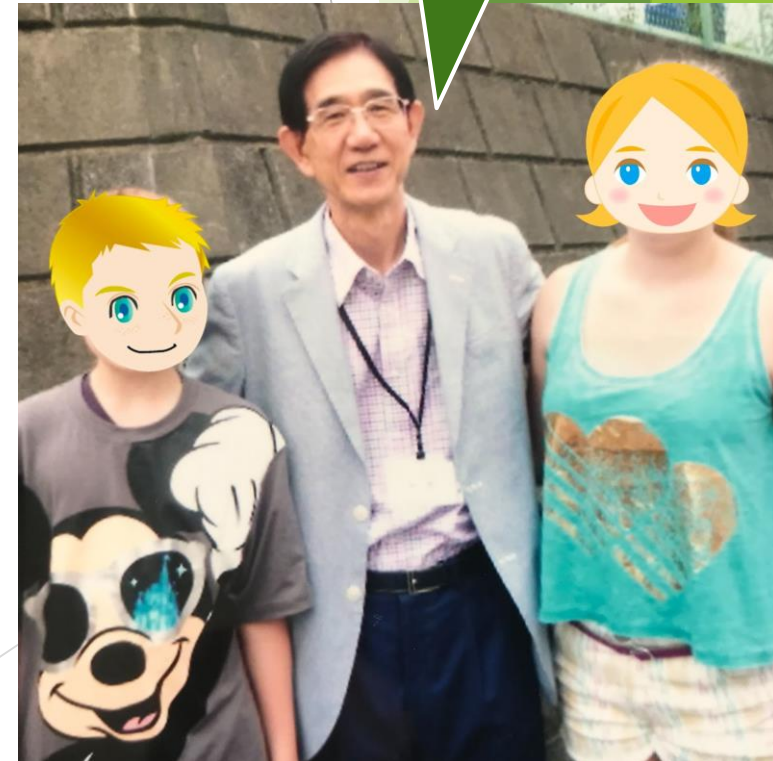


2022年1月28日
於：大阪夕陽丘学園高校
NPO法人国際人をめざす会
阿部 清

自己紹介

- **銀行員**として海外、特に**ドイツ語圏**で長く過ごし、異文化・多文化の中で生きる力に触れる
- 息子が地元小学校入学を契機に**退社、地域・社会貢献にシフト**する
- ワシントンDCの公立小学校との「**国際交流プログラム**」をスタート
- **NPO法人国際人をめざす会**の理事兼講師派遣委員長に就任

日本の子供たちが、
世界に大きく
羽ばたくために！



日米間公立小学校の国際交流プログラム

内容：現地校とホームステイで過ごす10日間

参加者：小学生12名（5年生8名・4年生4名）

Day
1

成田空港出発、**フライト時間 13時間**後到着
バスで姉妹校に到着、ホストファミリー出迎え

Day
2

各ホストファミリーと過ごす（ショッピングやスミソニアン博物館見学）
疲労と寂しさで**ホームシック**になりがち

Day
3

はじめての登校日

ウェルカムパーティー



カフェテリアでランチ



「Recess」 (校庭で遊ぶ)



午後の課外授業
ハロウィンの「Pumpkin Carving」



Day
4

クラスルームで授業参加



ブランコ遊び



「Recess」
校庭にある
遊具遊び

バスケットボール



午後の課外授業
航空宇宙博物館・別館見学

Day
5

午前中は授業、 午後は地元のショッピングセンターへ



Day
6

日本大使館による交流授業や課外授業など



日本大使館より3名来校して
東京オリンピックトーチの紹介



課外授業
ショッピングセンターの
ピザ屋さんでピザ作り体験



授業風景



Day
7

姉妹校最後の日

お別れの茶会



学校の中庭で
アイスクリーム
パーティー



午後の課外授業：ヒップホップダンス



地区の高校主催の
ホームカミング・パレードに参加

Day
8

最後のホストファミリーとの週末

各自名残惜しく過ごし、

夜は全家族集合で仮装してハロウィン・パーティー！



Day

9

**最後の別れ、米国出発
そのとき姉妹校の生徒は・・・**

Day

10

**成田空港着、たくさんの思い出とお土産とともに
10日間で一回りも二回りも成長して帰国！**

子どもたちはどんな力をつけたのか？

- **ホームステイ**での子どもたちの様子は？

- 子どもたちがつけた**力** = **国際人の原点**

Thinking by oneself (自分で考える力)

Problem solving ability (問題を解決する力)

Communication ability (コミュニケーション能力)

- 随行者の**喜び**

- 保護者の**驚き**

- 子どもたちの**変化**

子どもたちも社会貢献、草の根外交ができる！

- 渡米**前**の子どもたちにとってのアメリカ
- 渡米**後**の子どもたちにとってのアメリカ
- 一緒に暮らすことで**社会問題**が自分事になる
- その後も続いていく**交流**や広がっていく**好奇心**

なぜ海外に行くのか？ 海外で何が学べるのか？

- 在米日本大使館の2等書記官の発言
- インターネットでも何でも調べられる時代に
それでも現地に赴いてほしい理由

将来の国際人をめざすためのヒント

- **コミュニケーション能力**の涵養
「対話の重要性」 「論理的主張を育む」
- **異文化・多文化**との共生の国際理解マインドの育成
- **外国語（英語）**を学ぶ意義
- **知的ハングリー精神とモチベーション**を育む

《 完 ・ おわり 》

ご清聴ありがとうございました。

是非、一度、海外にお出かけください！

皆様のご活躍を期待しています！

以降は詳細版

「日米間公立小学校の国際交流プログラム」

～将来の国際人を育てるためと子どもたちの社会貢献（草の根外交）～

【体験入学プログラムの概要】

2019.10.12～10.21

参加者：12名（5年生8名、4年生4名）随員員3名

第1日目（土）

成田空港出発、セキュリティチェック、出国手続き、
フライト時間13時間後ダレス空港到着
姉妹校の先生出迎え、バスで**姉妹校に到着** ホスト
ファミリーの出迎え、抱き合って喜ぶ

第2日目（日）

各ホストファミリーと過ごす（ショッピングや
スミソニアン博物館見学）

疲労と寂しさで**ホームシック**になりがち



【自己紹介】

【経歴】

- ・ NPO法人国際人をめざす会 理事兼講師派遣委員長
- ・ 横浜市立矢部小学校 地域学校協働本部「きずな」会長
- ・ 横浜市教育委員会委嘱 学校運営協議会委員
地域・学校コーディネーター

<過去の経歴>

- ・ 古河不動産 取締役、古河機械金属不動産本部副部長
- ・ 第一勧業銀行 支店長、検査部検査役
- ・ スイス第一勧業銀行 副総支配人
- ・ フランクフルト駐在員事務所次席駐在員
- ・ 西ドイツ留学（マインツ大学）
- ・ 第一銀行入行（のち第一勧業銀行、みずほ銀行）
- ・ 横浜国立大学 経済学部卒

1. 息子が地元小学校入学を契機に退社、地域と社会に貢献できる場を求めて最初のステップが
PTA会長に就任。次に地域力を結集した学校支援ボランティア「きずな」の組織化
2. ワシントンDCの公立小学校との「国際交流プログラム」をスタート。その経験が原点となり、
NPO法人国際人をめざす会の理事兼講師派遣委員長に就任し、日本の将来を担う子供たちに
世界に大きく羽ばたくための夢と希望の出前授業を展開中

【体験入学プログラムの概要】

第3日目（月）初めての登校日

ウェルカムパーティーの開催



カフェテリアでランチ



午後の課外授業：ハロウィンの「Pumpkin Carving」



「Recess」（校庭で遊ぶ）



【体験入学プログラムの概要】

第4日目（火） クラスルームで授業参加

ブランコ遊び



バスケットボール



午後の課外授業：航空宇宙博物館・別館見学

「Recess」 校庭にある遊具遊び



【体験入学プログラムの概要】

第5日目（水）

午前中授業 午後：ボランティアの引率でショッピングセンターでのゲームと買い物



【体験入学プログラムの概要】

第6日目（木）

午前：日本大使館より3名来校して
東京オリンピックトーチの紹介



授業風景



課外授業：ショッピングセンターのピザ屋さんで
ピザ作り体験



【体験入学プログラムの概要】

第7日目（金）姉妹校最後の日

お別れの茶会、他のクラスでもお別れ授業



午後の課外授業：ヒップホップダンス



地区の高校主催のホームカミング・パレードに参加

学校の中庭で
アイスクリーム
・パーティー



【体験入学プログラムの概要】

第8日目（土）最後のホストファミリーとの週末（各自名残惜しく過ごす）

夜、全家族集合によるコスチューム・パーティー（ハロウィーンパーティー）開催



【体験入学プログラムの概要】

第9日目（日）

最後の別れ 米国出発

別れを悲しむように大雨の天候、ホストファミリーとハグをして涙の別れ、バスに搭乗。ついにバスが動き出したその瞬間に、突如、姉妹校の児童6～7名が土砂降りにもかかわらず、一斉に走り出し、ずぶ濡れになりながらバスを追いかけて一生懸命大きく手を振り、日本の子どもたちも窓を開けて手を振る姿は、8日間の滞在を締めくくる感動的な光景であった！

第10日目（月）

日本 成田空港に無事到着

ホストファミリーから頂いた沢山のお土産をトランクに詰め、貴重な異文化体験や素晴らしい思い出を胸いっぱい抱き、保護者と一緒に元気に帰宅の途に就いた。

帰宅後、どんなことを家族や友達に話すのか楽しみだ！（完）

将来の国際人を育てるために、 子どもたちが身につけた（習得した）成果

- ◆ Thinking by oneself（自分で考える力）
 - ◆ Problem solving ability（問題を解決する力）
 - ◆ Communication ability（コミュニケーション能力）
- } 将来の国際人の原点

随行者の評価：

子どもたちの適応能力は素晴らしい、子どもたちの潜在能力は無限の可能性を秘めている。

保護者の評価：

たった10日間の米国滞在から帰国後は、一回りも二回りも遅しくなった。
自信がついたように見える。

子どもたち自身の発言：

「僕はワシントンの姉妹校に体験入学したので、中学生になったら英語を頑張って将来海外で活躍したい」（卒業式で壇上で卒業証書を授与される際の一言あいさつ）

子どもたちも社会貢献、草の根外交となったのか

渡米前の子どもたち→アメリカに対する関心＝漠然として他人ごと、無関心に近い

渡米後の子どもたち→アメリカを見る視点・具体的な座表軸を持つようになる

→「自分が家族の一員としてステイしたホスト家族とその住んでいる町、体験入学した学校
友だちと遊んだ公園や近くのショッピングセンター、週末に見学したワシントンDC」

子どもたちのホームステイ先：アフリカ系黒人、メキシコ中南米系、ヒスパニック系、アジア系

◆黒人差別問題（BLM）→黒人のホスト家族にホームステイした子どもは自分ごと捉える

◆メキシコ国境の壁の問題→メキシコ中南米のホスト家族にステイした子どもは自分ごと

◆トランプ支持者が国会議事堂乱入問題→子供たちがホスト家族と見学したので自分ごと

結果として日米間の国際理解につながる

日米の子どもたちは中学生・高校生・大学生になっても交流は継続、夏休みに家族で相互訪問
まさに草の根の外交に寄与。

なぜ海外に行くのか？ 海外で何が学べるのか？

◆在米日本大使館の2等書記官の発言：

「小さい頃海外で過ごしたり海外と接する機会があり、それが自分の原点となり外交官になった。小学生でこのような体験をした君たちの中からも外交官になる人がいるかも」

◆子どもたちは自分を再発見し、自分の隠れた資質・能力を発揮するチャンスとなった

◆現地校へ体験入学して初めて違いを発見→異文化・多文化の体験

- 「職員室」がない、教室は担任の「先生の名前」が掲示、学校は自由な雰囲気、スナック菓子を食べながら授業を受けたり、あぐらをかいたりバランスボールに乗ってる児童
- 授業の内容は討論が重視、机を寄せ集めて学ぶグループ方式、肩を並べて一か所に集まる意見交換方式、輪になるゲーム方式→クラスが20名だから可能か
- 姉妹校はアジア系、アラブ系、アフリカ系、ヒスパニック系など国際色豊かな公立小学校朝礼で星条旗に誓いを立て国歌を歌うことで連帯→多民族国家を現場感覚で実感

◆日本の常識は世界の非常識：

「単一民族、単一言語、島国で他国と国境を接していない国」で特異な国

- アメリカ社会は多民族国家、スイスはドイツ語・仏語・伊語が母国語、ベルギー（ワロン後、フランス語）欧州大陸（アルプス・ローヌ地方は過去独・仏に属した）

→海外に現地に行ってみて初めて日本との違いが実感できる（世界は広いぞ、多様で多彩だ！）

将来の国際人をめざすためのヒント

◆コミュニケーション能力の涵養：「対話の重要性」「論理的主張を育む」

- 「グローバル化した世界では相手に自己主張して自分の考えを伝えることが重要」
- ドバイ人は家庭・社会生活でことばを用いて徹底的に話し合い論じ合い語り尽くしてやまない
「はじめに言ありき」→「沈黙は金」ではなく「沈黙は無能」YesとNoをはっきりさせる
「私が」「私は」と私の意見・提案をハッキリ表明
- ドバイ的教育の主眼＝批判精神→子どもの時から「自分を主張し他人を批判できる人間になれば、自分の意見を持てそしてそれを誤ってもいいから論理的に言い張れ」と徹底的に教え込まれる cf:「姉妹校の授業も討論が重視」

◆異文化・多文化との共生の国際理解マインドの育成：「価値観の多様性」と「違い」にレスポンス

- 純潔より雑種の強さ」→多様な価値観のぶつかり合い→活力とバリエーションが生まれる

◆外国語（英語）を学ぶ意義：「コミュニケーションのツール」を磨く

- ことばの裏にはその国の生活・文化がある→異文化・多文化の理解につながる
- 自分の自信につながる→外国人に遠慮がち・卑屈にならない
- 「英語」→いろんな局面で「武器」になる

◆知的ハングリー精神とモチベーションを育む：アンテナを高く好奇心の感度を高める

《完・おわり》

ご清聴ありがとう
ございました。

是非、一度、海外にお出かけください！

皆様のご活躍を期待しています！